

倉敷市総務課歴史資料整備室
令和5年度歴史資料解説会「描かれた家と町」

令和6年1月27日



井上家住宅の家相図

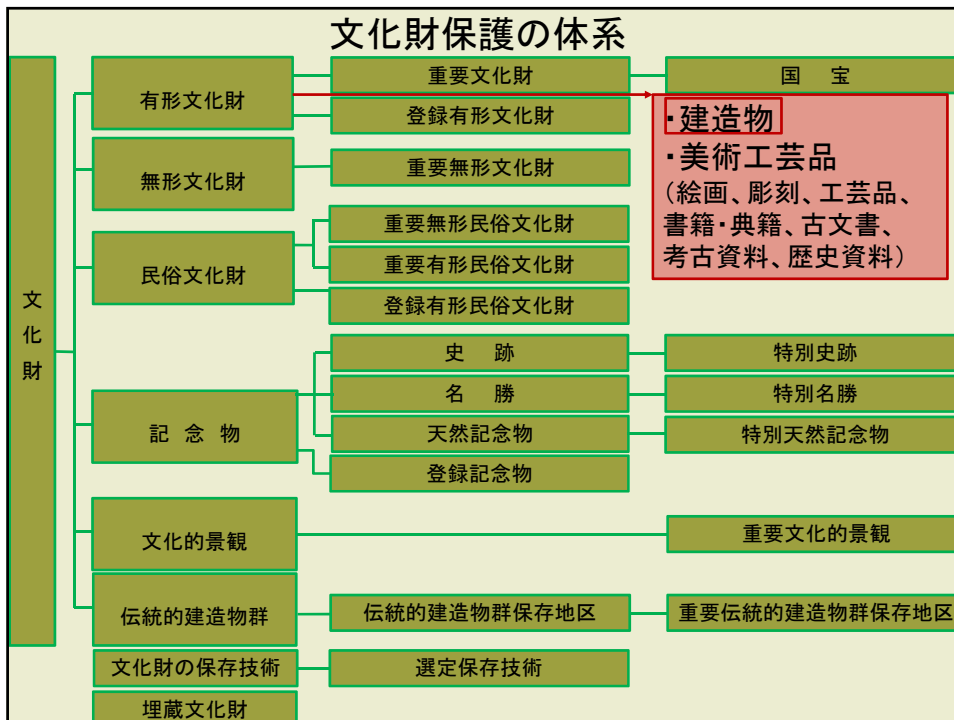
— 建物の修理を通してわかったこと —

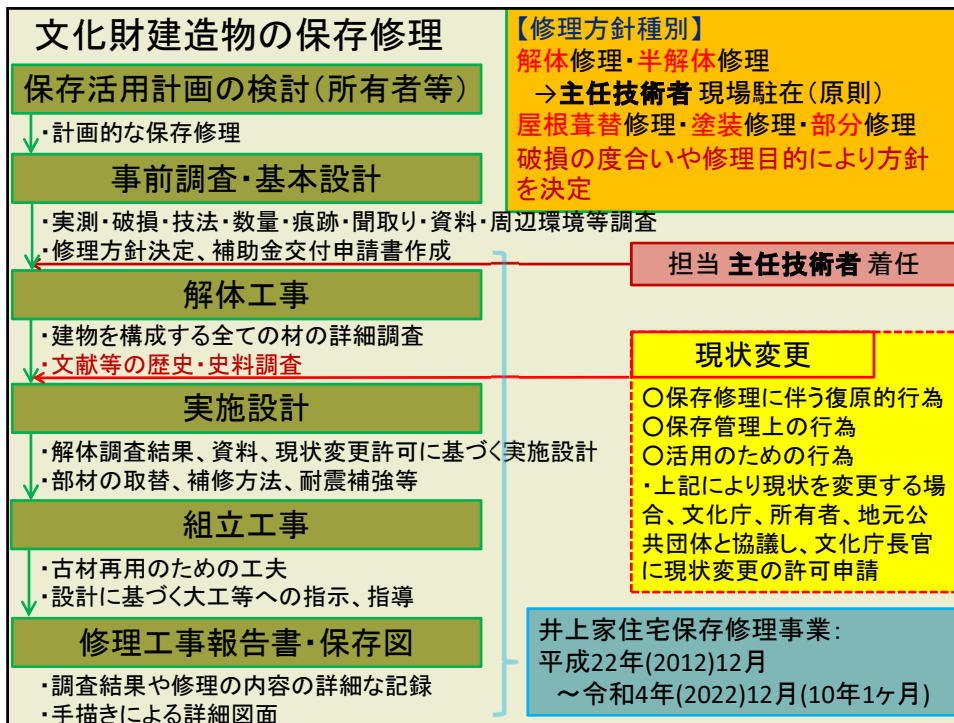
公益財団法人文化財建造物保存技術協会
事業部 管理室 管理課
技術主任 小嶋 はるか

(元 重要文化財井上家住宅 主屋ほか4棟設計監理事務所 所長)

1. 文化財建造物修理の体制・略歴
2. 井上家住宅について
3. 井上家住宅の家相図

1. 文化財建造物修理の体制・略歴





文化財建造物修理における主任技術者の役割

文化財保存事業費関係補助金交付要綱

- ・国指定文化財の保存修理補助事業では、設計監理にあたる技術者として主任技術者を使用しなければならない。
- ・主任技術者：あらかじめ文化庁の承認を受けた者

重要文化財建造物の修理

文化財の価値の維持

**一般の建造物修理とは異なる
高度な専門知識と経験・技術**

- ・補助金交付申請書・発注図書の作成
- ・修理実施時の技法調査
- ・破損状況の把握、原因究明
- ・破損原因に対処すべき修理計画の立案
- ・現状変更の検討
- ・伝統技法による施工監理
- ・修理工事報告書の刊行

主任技術者：全国に130人程度
 内、文化財建造物保存技術協会勤務：約80人

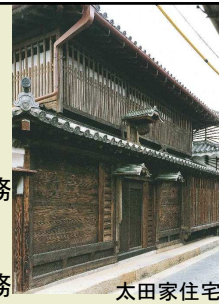
略 歴

平成9年 財団法人文化財建造物保存技術協会 入会
 平成9～13年 (重文)太田家住宅主屋他8棟 設計監理事務所
 (広島県) 勤務

平成13～14年 (重文)平井家住宅 設計監理事務所(茨城県) 勤務
 平成14～16年 (県文)無量寿寺本堂 保存修理工事(茨城県)
 担当(兼務)

平成15～17年 (重文)坂野家住宅 設計監理事務所(茨城県) 勤務
 平成17～22年 (重文)歓喜院聖天堂 設計監理事務所(埼玉県) 勤務

平成19～20年 (重文)旧茂木家住宅 保存修理工事(群馬県) 工事主任(兼務)
 平成20年 (重文)旧新井家住宅 保存修理工事(埼玉県) 工事主任(兼務)



太田家住宅



歓喜院聖天堂



坂野家住宅

平成22～24年 (重文)寛永寺旧本坊表門(黒門)設計監理事務所(東京都) 工事主任
 平成24～令和4年 (重文)井上家住宅主屋ほか4棟 設計監理事務所(岡山県)

工事主任

平成30～令和2年 (重文)大橋家住宅附屋根堀(東北面) 保存修理工事(岡山県)
 工事主任(兼務)

工事主任(兼務)

平成31～令和4年 (重文)井上家住宅主屋ほか4棟 防災施設整備工事(岡山県)
 工事主任

工事主任

令和4年～ 事業部管理室管理課

令和5年 (重文)旧長谷川家住宅主屋 保存修理工事(新潟県) 工事主任

令和5年～ (重文)新潟県議会旧議事堂 保存修理工事(新潟県) 工事主任

文化財建造物修理主任技術者(上級)・一級建築士



寛永寺旧本坊表門

新潟県議会旧議事堂

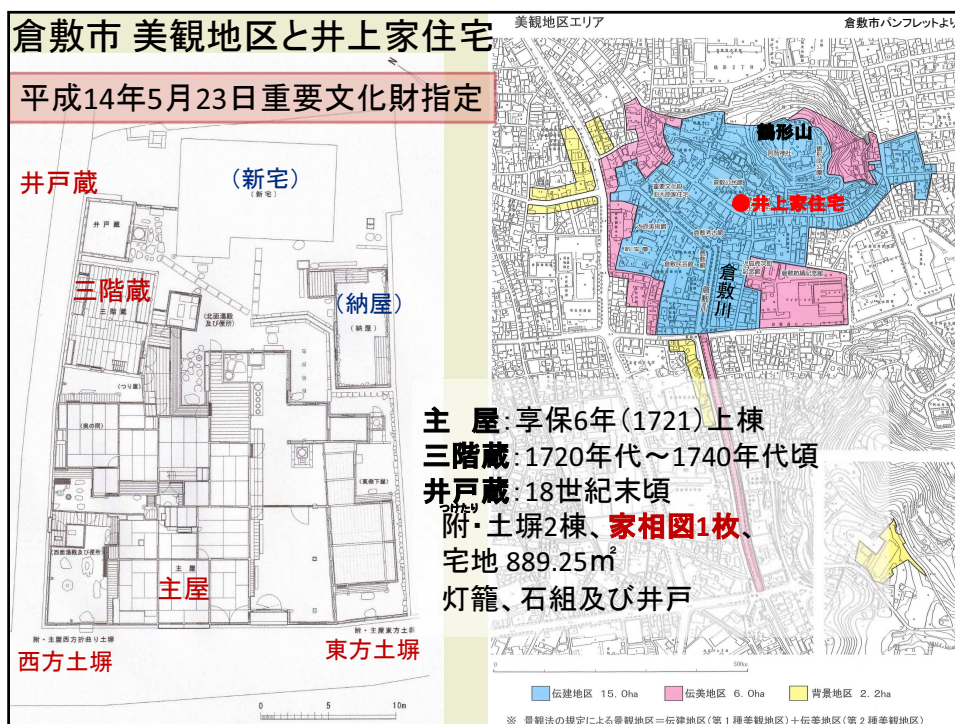


旧長谷川家住宅



井上家住宅

2. 井上家住宅について





井上家住宅 主屋

・倉敷で最古の町屋

倉地克直他
『絵図で歩く倉敷
のまち』(2011)より



玉泉寺

文化9年(1812) 井上家系譜図

第六世安兵衛: 貞享元年(1684)生、宝暦3年(1753)没

「新材ヲ以テ再居宅ヲ大ニ造ルハ此人ナリ」



文化財指定前



修理前

安兵衛

出家し大阪・堺に住んだ父に代わり、15歳で家督を継ぎ、その後繁昌していた酒造業を廃業(※)。

父が嫌ったため。

父を迎える坊庵(東日庵)、さらにはそれを基に菩提寺(玉泉寺)を営む。

※廃業時期

①第10世端木手記: 安兵衛30歳(正徳3年<1713>)にて、父を迎えに行き即廃業

②「酒株高酒造米高書上帳」(小野家文書107-7-4): 宮崎屋は享保5年(1720)より酒造せず廃業

現存する建物は正徳年間頃

建築? または 既存の建物を大規模に改築?
(重文指定時までの推定。①より)

→今回の修理で**享保6年(1721)上棟**と判明

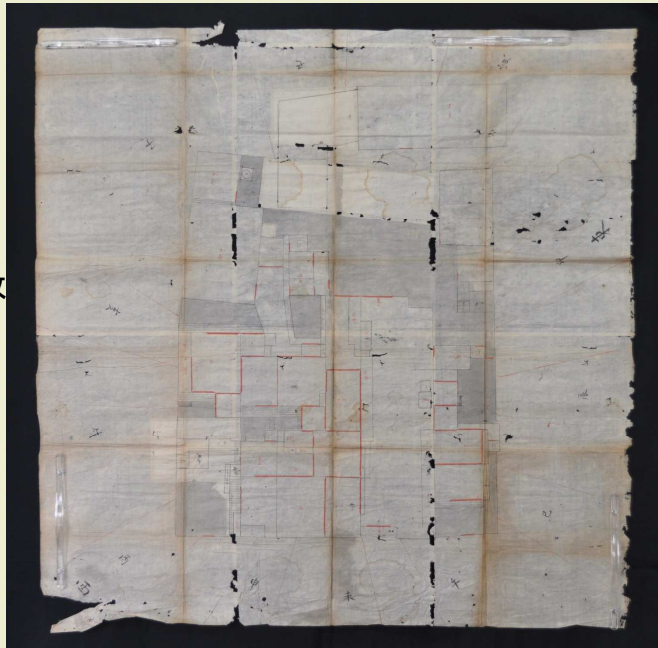
井上家住宅(修理完了後)



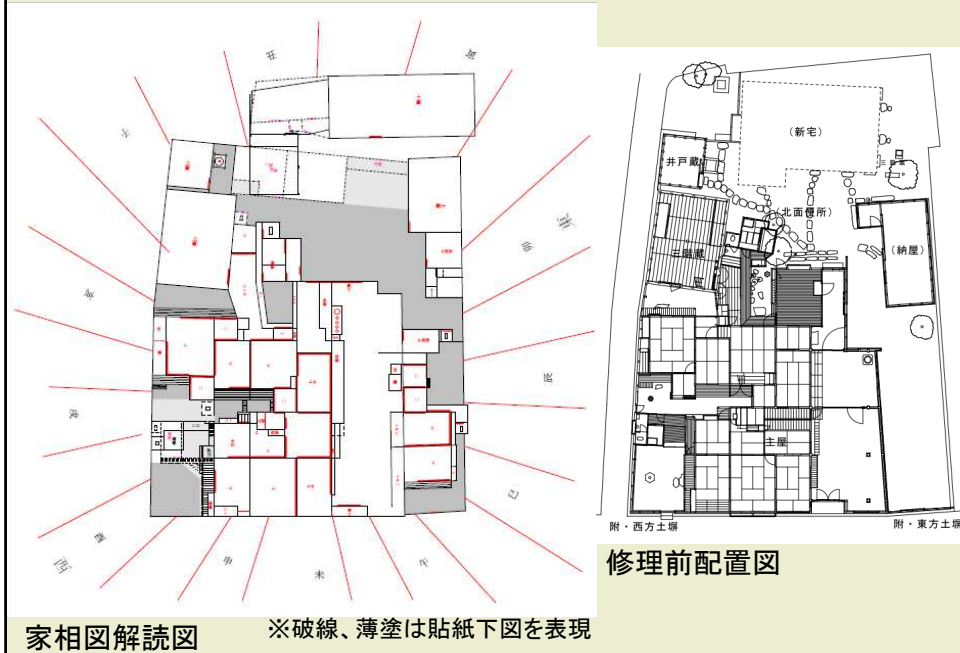
3. 井上家住宅の家相図

井上家住宅の家相図

- ・重要文化財^{つかけり}附指定
(井上家所蔵)
- ・横950mm × 縦955mm
- ・326mm × 473mmの
和紙6枚、半端分3枚
を継いで作製
- ・年代・作者無記入



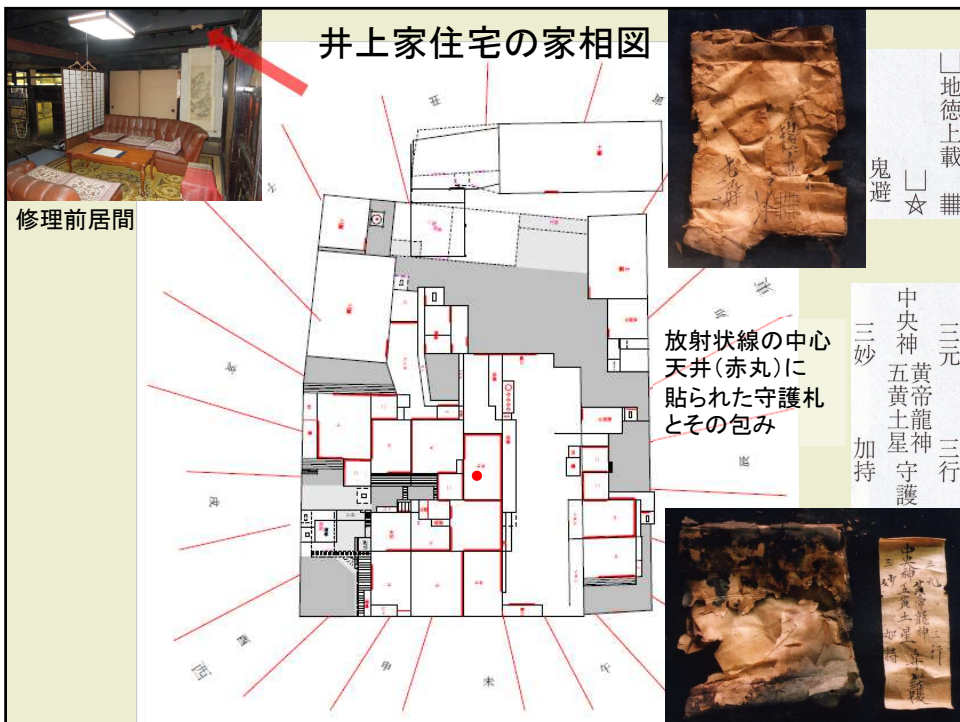
井上家住宅の家相図



家相図解説図

※破線、薄塗は貼紙下図を表現

修理前配置図



修理前居間

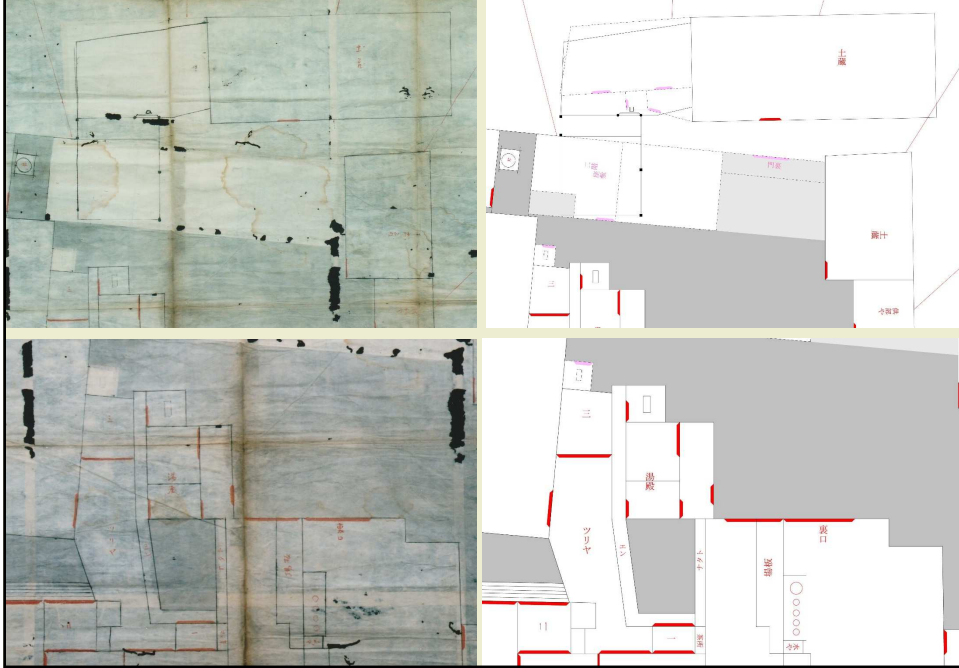
井上家住宅の家相図

地徳上載 兼
鬼避 ☆

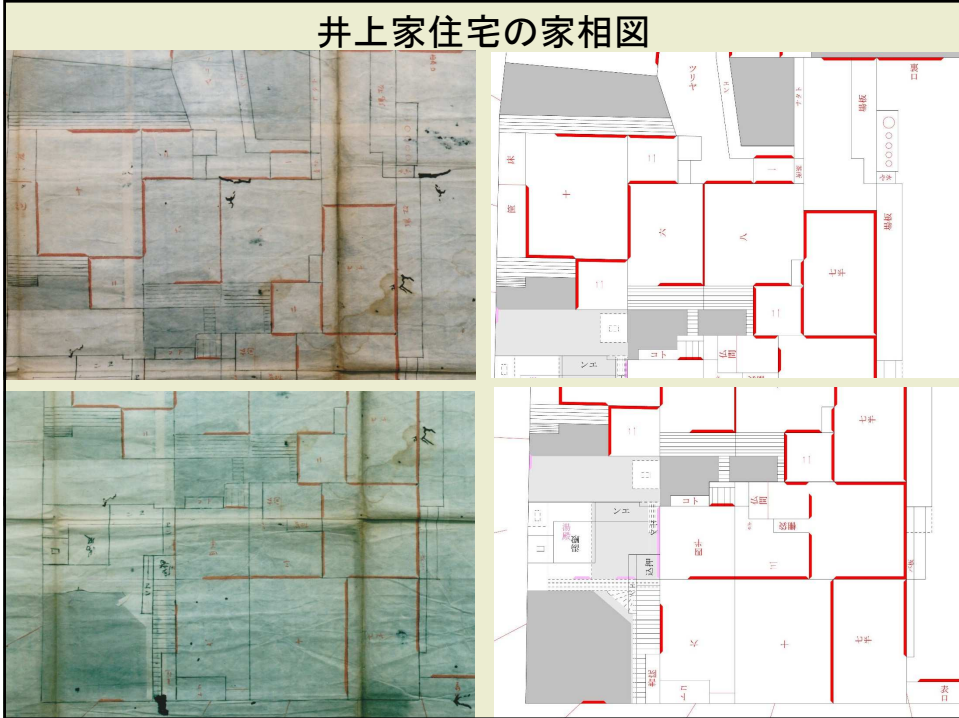
三元 三行
中央神 黄帝龍神
五黄土星 守護
三妙 加持

放射状線の中心天井(赤丸)に貼られた守護札とその包み

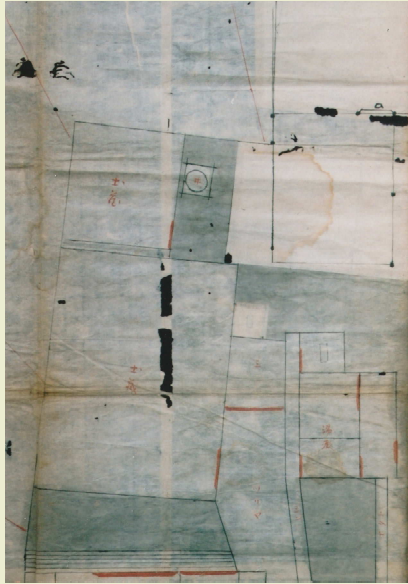
井上家住宅の家相図



井上家住宅の家相図



井上家住宅の家相図



井上家住宅の墨書・箆書

重要文化財 井上家住宅 年号等墨書



① 主屋表屋鬼瓦裏



② (赤外線写真)



③ (赤外線写真)



④ (赤外線写真)



⑤



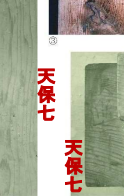
⑥ (赤外線写真)



⑦ (赤外線写真)



⑧ (赤外線写真)

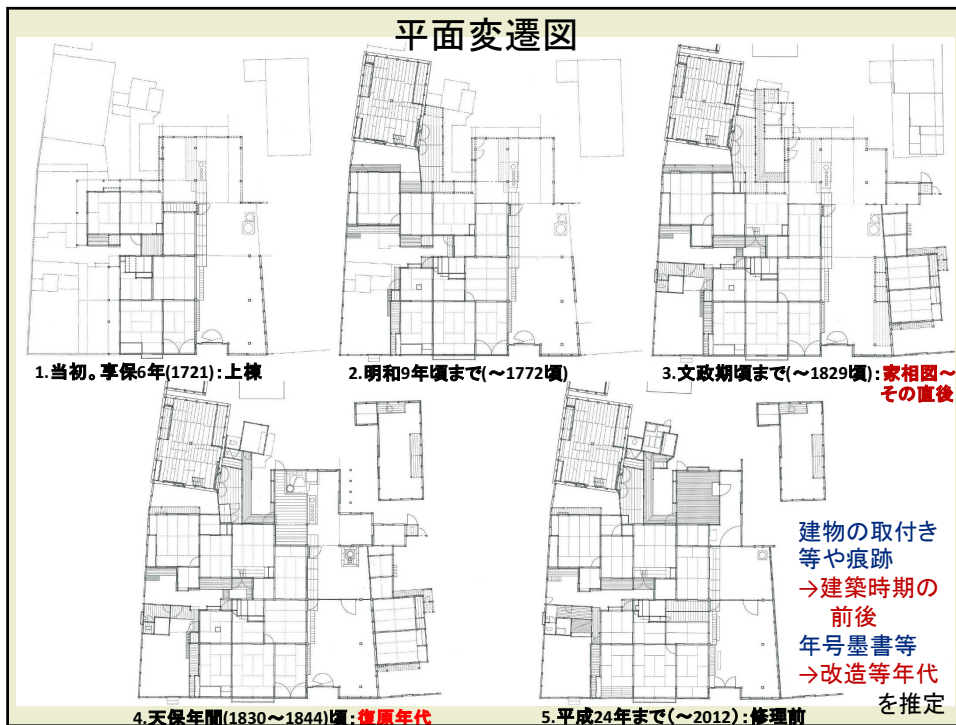
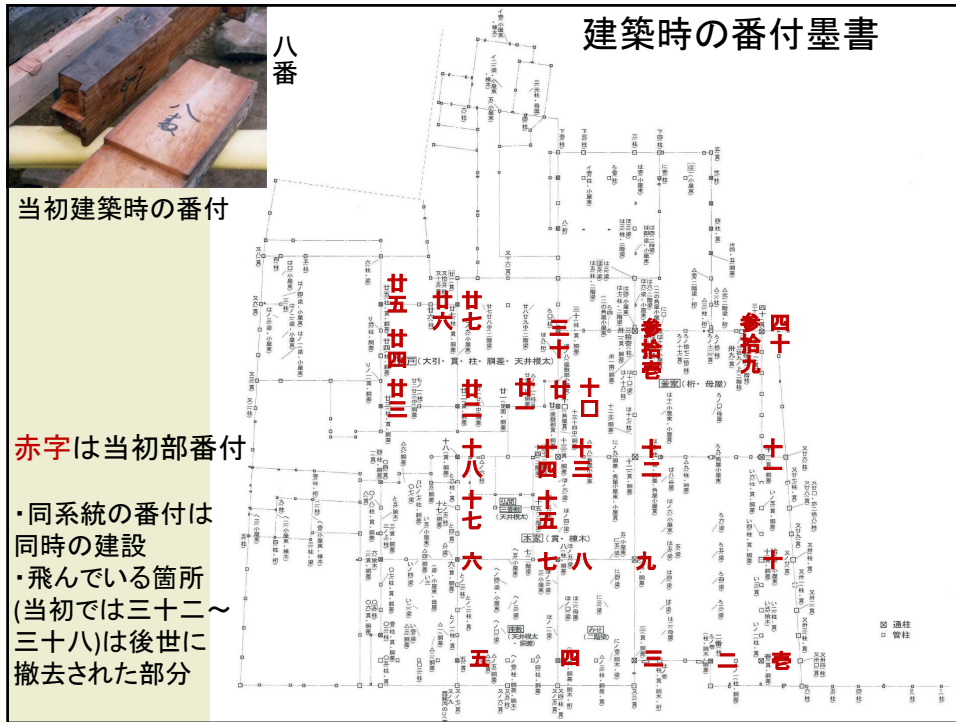


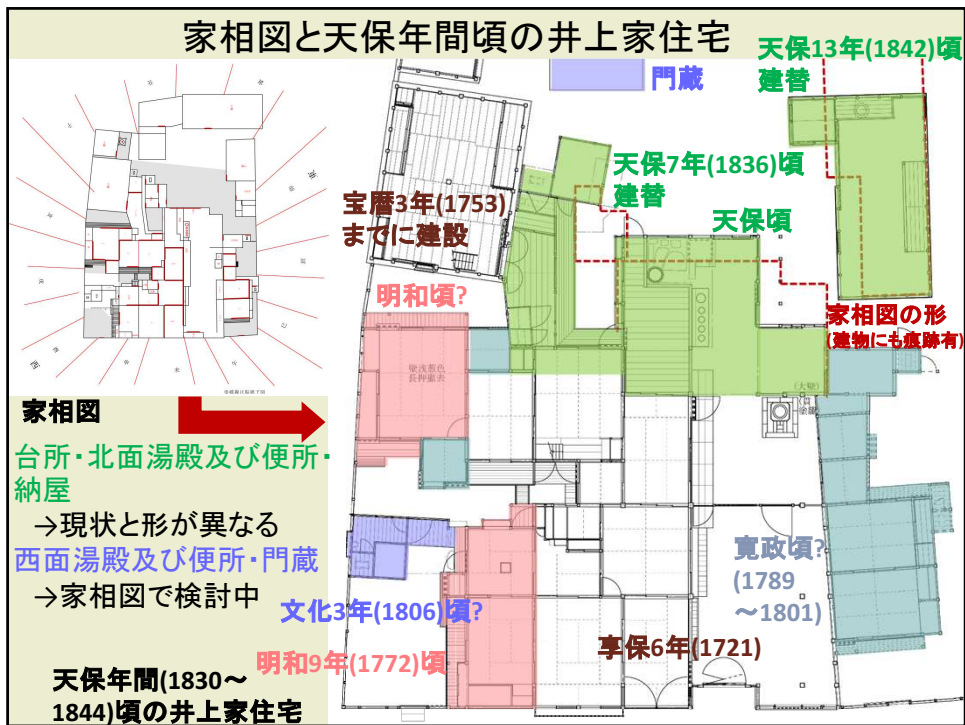
⑨ (赤外線写真)



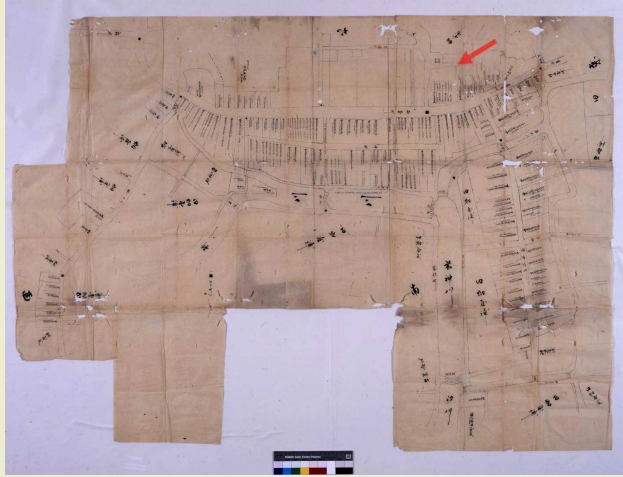
⑩ (赤外線写真)

- ① (主屋表屋鬼瓦裏) 主屋表屋鬼瓦裏に墨書「天保七」(1836)と「享保六」(1721)の文字あり。
- ② (赤外線写真) 主屋表屋鬼瓦裏に墨書「文化三」(1840)の文字あり。
- ③ (赤外線写真) 主屋表屋鬼瓦裏に墨書「明和九」(1801)の文字あり。
- ④ (赤外線写真) 主屋表屋鬼瓦裏に墨書「享保六」(1721)の文字あり。
- ⑤ 主屋表屋鬼瓦裏に墨書「天保七」(1836)と「享保六」(1721)の文字あり。
- ⑥ (赤外線写真) 主屋表屋鬼瓦裏に墨書「天保七」(1836)の文字あり。
- ⑦ (赤外線写真) 主屋表屋鬼瓦裏に墨書「宝暦五」(1725)の文字あり。
- ⑧ (赤外線写真) 主屋表屋鬼瓦裏に墨書「天保十三」(1842)の文字あり。
- ⑨ (赤外線写真) 主屋表屋鬼瓦裏に墨書「天保七」(1836)の文字あり。
- ⑩ (赤外線写真) 主屋表屋鬼瓦裏に墨書「天保七」(1836)の文字あり。





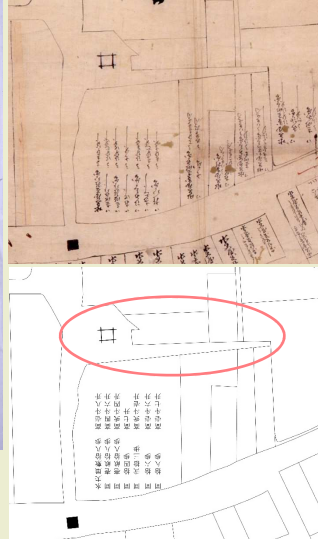
倉敷の古地図



水夫屋敷図 寛政3年(1791)か

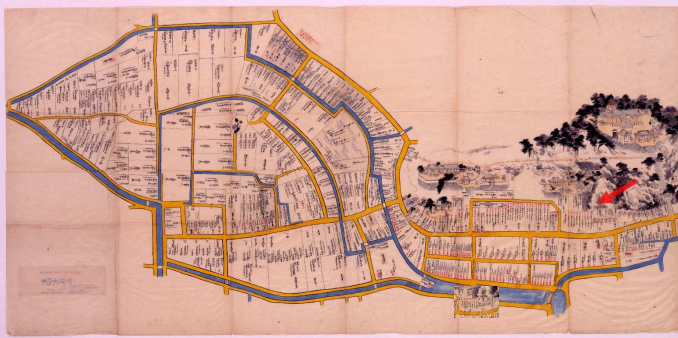
倉敷市総務課歴史資料整備室所蔵
小野家文書

井上家部分(矢印)拡大



敷地裏
道が奥まで続く

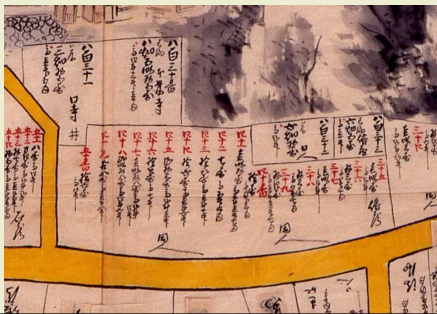
倉敷の古地図



倉敷村本田小割絵図
三 文久3年(1863)

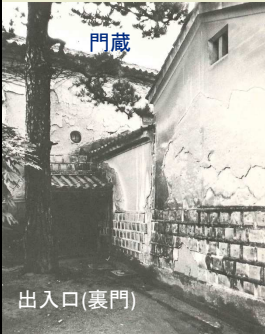
大橋紀寛家文書

井上家部分(矢印)
拡大




敷地裏
道が消滅
宅地は東へ拡大

門 蔵



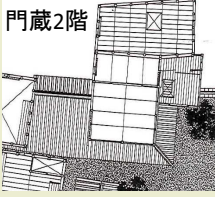
出入口(裏門)



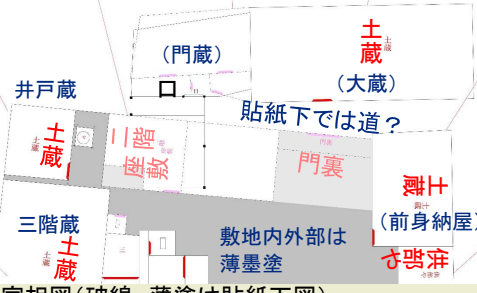
門蔵

大蔵: 明治初め頃までに撤去
(近隣へ曳家か)
門蔵: 平成9年(1997)解体
建築年代不明、井戸蔵より後
だが井戸蔵も建築年代不明

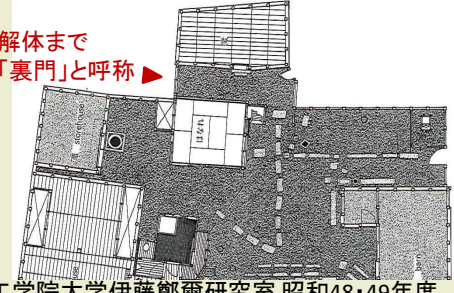
↑第15世井上昌氏撮影 昭和55年(1980)頃
←『PROCESS: Architecture』第31号
(プロセア-キテクチュア、1982年)



門蔵2階
井戸蔵・三階蔵



家相図(破線、薄塗は貼紙下図)



解体まで
「裏門」と呼称

工学院大学伊藤鄭爾研究室 昭和48・49年度
(1973・74)実測図(部分) 工学院大学図書館

主屋 西面湯殿及び便所





家相図: 門蔵廻りと同様、
貼紙で大規模に修正し
図は他の部分に比べ簡素
→両者とも既存ではなく
この家相図で建築を検討か

文化3年(1806)に座敷等模様替 → 西面湯殿及び便所も同じ頃増築?
(参考)
井上家第9世(五蔵)・第10世(三郎右衛門)各夫婦が、小沢庵庵亡き後師事した小川萍流は、
文化6年8月24日～翌年2月4日まで4のつく日に歌会を11回開き、出席者に井上家一族が多い
→宮崎屋(井上家)が逗留先で歌会の会場か?
『新修倉敷市史 第四巻 近世(下)』(倉敷市史研究会編、山陽新聞社、平成15年)



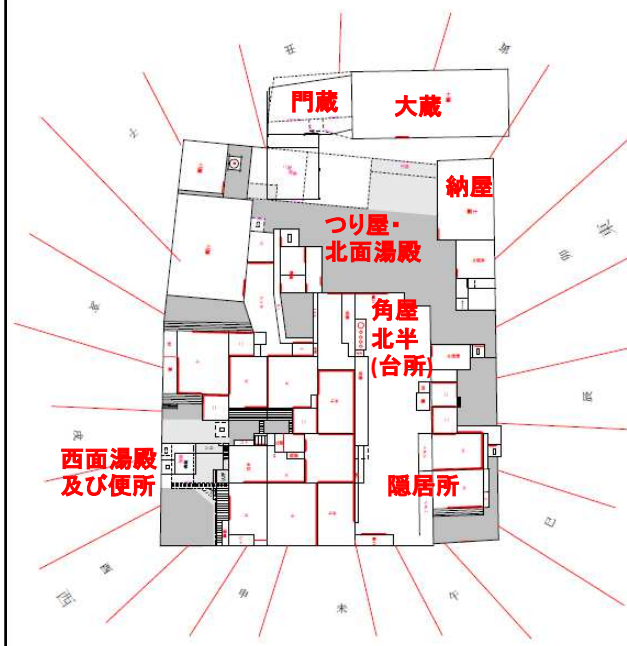
家相図(破線、薄塗は貼紙下図)



修理・復原後平面図

文化3年(1806)墨書 → 座敷

家相図製作年代(推定)



・「水夫屋敷図」(寛政3年<1791>か)より後、北側を敷地内に取り込み大蔵を建築(または取得)

・隠居所(修理前撤去)を増築
寛政7年(1795)第9世五蔵隠居
→寛政頃?(1789~1801)

・門蔵(平成9年<1997>解体)、西面湯殿及び便所の普請を当図で検討、新築
→文化3年頃(1806)?

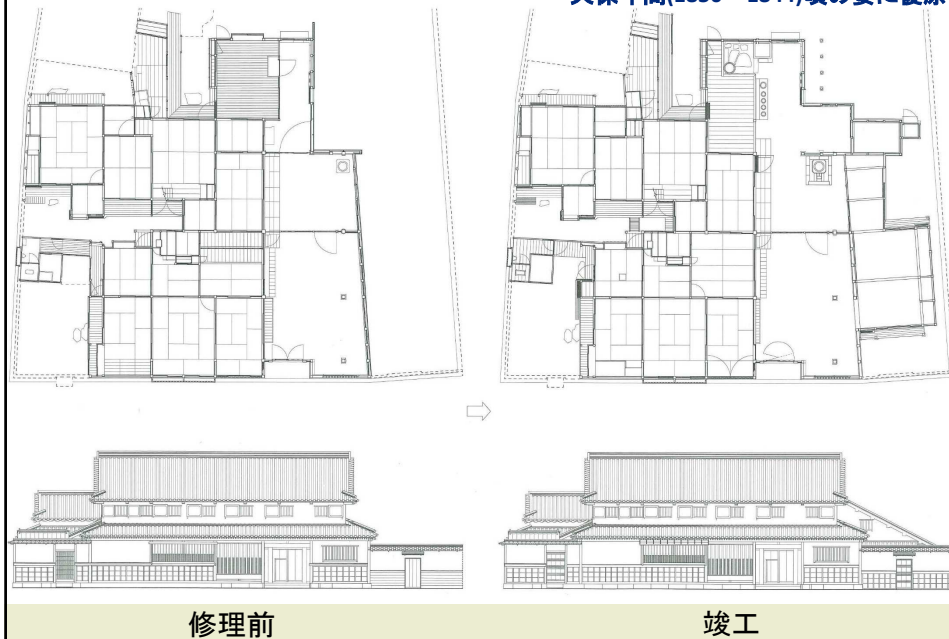
・その後、つり屋・北面湯殿建替(天保7年<1836>頃)
・同じ頃、角屋北半(台所)建替
・納屋建替(天保13年<1842>頃)

↓
寛政4年(1792)~
天保6年(1835)頃の製作か

(参考)上記期間の五黄土屋(守護札)の年: 寛政9年(1797)、文化3年(1806)、同12年(1815)、文政7年(1824)、天保4年(1833)

主屋の現状変更

天保年間(1830~1844)頃の姿に復原



修理前

竣工